

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

活火山の恵みと脅威を活力に～「十勝岳」魅力再発見プロジェクト～

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道空知郡上富良野町

3 地域再生計画の区域

北海道空知郡上富良野町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

(地勢)

上富良野町は、北海道のほぼ中央部に位置し、北から東にかけて美瑛町と新得町、南富良野町、南から西にかけては富良野市と中富良野町に隣接しており、旭川市・旭川空港・美瑛町から富良野方面に繋がる国道 237 号線が町西部を通過していることから夏季は非常に多くの観光客が町を經由するほか、道北と帯広、日高地方を結ぶ物流の重要な経路となっている。

東・北・西の三方を山岳地帯に囲まれる富良野盆地に位置することから内陸性気候が大きな気候特性となっており、夏の最高平均気温が 26℃前後、冬の最低平均気温はマイナス 15℃前後、年間積雪量は平坦部で約 1 m、十勝岳などの山間部では 2～3 m に達する。

また、日本百名山に名を連ねる十勝岳の火砕流堆積物からなる台地に広がる町であり、入植して 120 年来、十勝岳連峰が織りなす四季折々の彩りと大地の豊穡と共に、時として甚大な厄災を乗り越えながらまち・ひとが形成されている。

(人口)

上富良野町の人口は昭和 30 年の自衛隊駐屯により急増し、昭和 35 年には 17,101 人まで増加したものの以降は減少に転じ、平成 27 年の国勢調査結果では 10,814 人と、ピーク時の約 63%にまで減少している。

自衛隊及びその家族等の影響により高齢化率は近隣、同規模自治体と比較して低く（平成 29 年 3 月現在約 30.9%）過疎地域の指定とはならないものの少子高齢化の進行は著しい。

4-2 地域の課題

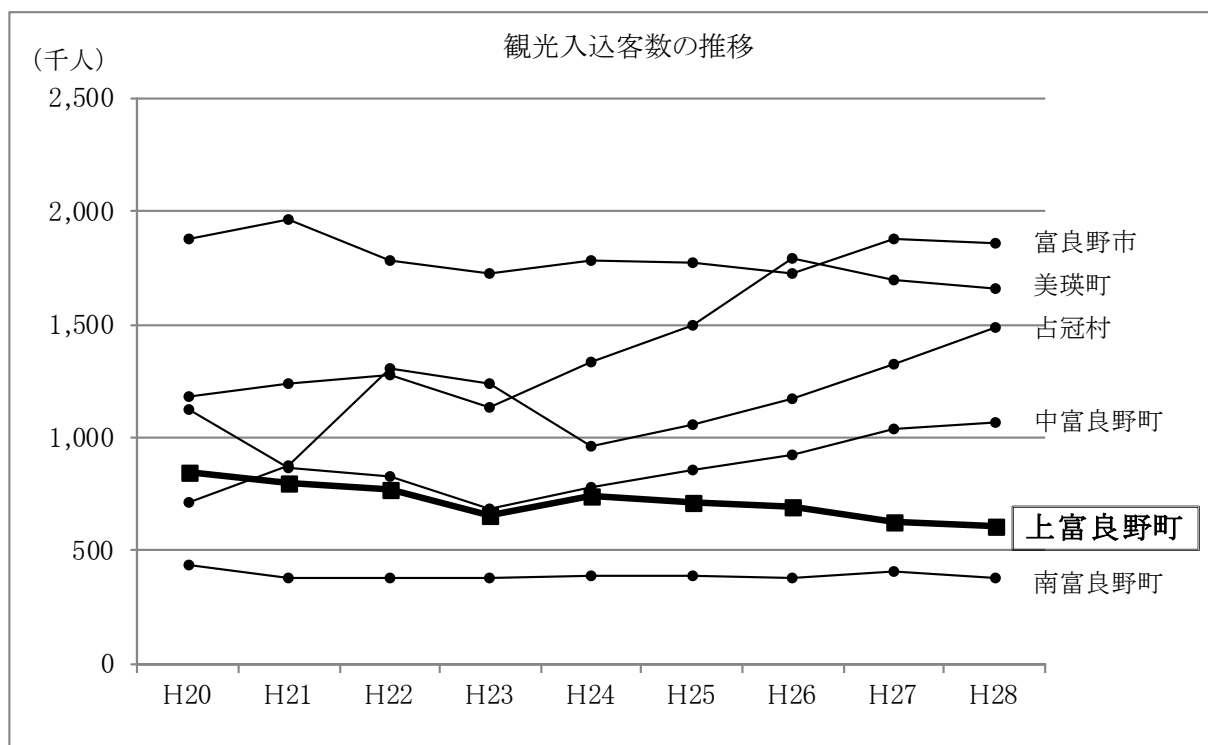
町内の経済発展と雇用機会の創出が喫緊の課題である一方で、地域おこしの核の存在が乏しく、開拓時代からの発展、災害と復興など上富良野の歴史に常に寄り添ってきた十勝岳に対する町民の認識も徐々に薄れてきている。

また、美瑛・富良野といった北海道を代表する観光スポットに隣接するものの上富良野ならではの主要な呼び込み要素、キラーコンテンツとなりうるシンボルが不足し、知名度・観光入込客数ともに大きく水をあけられており、人口減少や少子高齢化も相まって地域に閉塞感が漂う状況である。

◆観光入込客数の推移

(単位:千人)

市町村	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H20比
富良野市	1,882	1,961	1,782	1,725	1,780	1,769	1,721	1,880	1,860	△1%
美瑛町	1,183	1,243	1,274	1,131	1,332	1,494	1,791	1,698	1,660	40%
上富良野町	843	802	769	654	741	717	694	633	610	△28%
中富良野町	1,123	865	828	684	780	856	922	1,042	1,068	△5%
南富良野町	434	383	380	377	392	387	375	410	379	△13%
占冠村	716	872	1,308	1,235	967	1,054	1,172	1,329	1,487	108%
合計	6,179	6,125	6,341	5,805	5,991	6,277	6,675	6,993	7,064	14%



4-3 目標

国内外から多くの観光客を呼び寄せるための不動のシンボルとして十勝岳連峰を位置付けることで、十勝岳が北海道を代表する秀峰であることを受け入れ側が十分に理解・意識した上で、十勝岳を軸としたより魅力ある観光コンテンツを提供できるよう誘導する。

また、十勝岳及び上富良野町で生きる人々を題材とした作品の映画化による、全国的かつ直接的な魅力発信とあわせ、ラベンダー観光等で賑わったかつての集客力を取り戻し、観光による交流人口を増加させ地域を活性化することを目標とするものである。

事業	「十勝岳」魅力再発見プロジェクト	年月
K P I	日帰り観光客入込数	
申請時	533 千人	H29.3
初年度	583 千人	H30.3
2年目	725 千人	H31.3
3年目	820 千人	H32.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

国内外から多くの観光客を呼び寄せるための不動のシンボルとして十勝岳連峰を位置付けることで、十勝岳が北海道を代表する秀峰であることを受け入れ側が十分に理解・意識した上で、十勝岳を軸としたより魅力ある観光コンテンツを提供できるよう誘導する。

また、十勝岳映画による全国的かつ直接的な魅力発信とあわせ、十勝岳ジオパーク構想に基づく環境整備や、十勝岳の自然と標高差を活かしたネイチャーイベントの展開により、ラベンダー観光等で賑わったかつての集客力を取り戻し、観光による交流人口を増加させ地域の活性化を図るものである。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：「十勝岳」魅力再発見プロジェクト

(十勝岳「泥流地帯」映像化・地域活性化事業、十勝岳四季彩イベント推進事業)

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

国内外から多くの観光客を呼び寄せるための不動のシンボルとして十勝岳連峰を位置付けることで、十勝岳が北海道を代表する秀峰であることを受け入れ側が十分に理解・意識した上で、十勝岳を軸としたより魅力ある観光コンテンツを提供できるよう誘導する。

また、十勝岳映画による全国的かつ直接的な魅力発信とあわせ、ラベンダー観光等で賑わったかつての集客力を取り戻し、観光による交流人口を増加させ地域を活性化することを目標とするものである。

(事業の内容)

・十勝岳「泥流地帯」映像化・地域活性化事業

十勝岳をまちづくりの核として、地域共通の拠り所として再びその役割を取り戻すため、三浦綾子作「泥流地帯」及び「続・泥流地帯」の映画化と全国上映、国内外主要映画祭への出展を実現する。

映画製作会社若しくは製作委員会組織等が行う製作やプロモーションに地域全体で関わり、現地で製作支援に携わる地元組織に対する補助（本町が必要と認めた額に対して補助率 10/10）を行うと共に、ロケ地かつ原作の舞台である強みを活かし、ソフト・ハード両面で長期的に観光と地域振興の拠点として活用できる施設整備を行う。

・十勝岳四季彩イベント推進事業

これまで季節の祭りやイベントなど、各々実行委員会等により単体で実施されてきた十勝岳関連イベント（春：十勝岳山開き、夏：花と炎の四季彩まつり、秋：紅葉まつり、冬：北の大文字、雪まつり等）を関連付け、一年を通じ四季折々の彩りと移ろいを楽しめる「十勝岳四季彩イベント」として横断的に事業展開・拡充することで、十勝岳を核とした地域づくり、地域活性化、観光客の集客を図る。

具体的には、現状小規模で行っている春秋のイベント（山開き、紅葉まつり）を夏冬イベントと同規模にすることを目標に拡大すると共に、ステージイベントや人気のある花火大会の拡充、販売ブースの増設等のほか、広域的かつ大々的なPR活動を展開する。

⇒各年度の事業の内容

十勝岳「泥流地帯」映像化・地域活性化事業

初年度) 映画化の決定及びロケ地選考。さらに、撮影開始までに原作を題材としたイベントや周知活動を展開し、町民の間に作品に対する理解を深め、地域ぐるみで作品をつくりあげる機運を高める。

2年目) 事業の主年度であり、当該年度中に作品の完成を目指す。製作に当たっては住民による協力組織が主体的にサポートを行い、官民協働により撮影協力(宿泊・人員確保、ロケ地選定、物的支援、歴史考証協力等)、関係者と町民の交流事業、製作PR活動を実施する。

3年目) 完成作品の全国ロードショーと並行し、事業効果を長期的に維持するための環境整備として、試写・交流イベント等の開催やプロモーション参加等で上富良野町を大々的にPRするとともに、物語の重要な鍵となる舞台(建物)のロケセット跡を転用し、観光拠点施設として活用を図る。

十勝岳四季彩イベント推進事業

初年度) 四季彩イベントの連携・拡充方法を検討し、冬季の北の大文字のステージイベント及び花火大会の拡充を図る。

2年目) 各イベントの連携・拡充方針に基づく事業の見直しを行うとともに、四季を通じた地域おこしイベントとして町内外へのPRを図る。

3年目) 前年度の取り組みを継続、改良、拡充を図る。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

当町のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、国内外から新たな人(観光客)を呼び込み、町の賑わいを創出する施策が定められており、十勝岳「泥流地帯」映像化・地域活性化事業、十勝岳四季彩イベント推進事業はそれぞれ、この施策を具現化する事業である。また、総合戦略の基本目標として観光入込客数(620千人⇒820千人)に関する目標を定めており、本プロジェクトはこの目標のうち、宿泊施設整備を伴う宿泊入込客数を除く日帰り入込客数の大幅な増加を目指すものであり、目標の達成に直接的に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標(重要業績評価指標(KPI))

事業	「十勝岳」魅力再発見プロジェクト	年月
----	------------------	----

K P I	日帰り観光客入込数	
申請時	533 千人	H29. 3
初年度	583 千人	H30. 3
2 年目	725 千人	H31. 3
3 年目	820 千人	H32. 3

(6) 事業費

(単位：千円)

十勝岳「泥流地帯」映像化・地域活性化事業	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	700	56,000	31,300	88,000
区分	負担金、補助金及び交付金	300	56,000	31,000	87,300
	需用費	400	-	300	700

十勝岳四季彩イベント推進事業	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	9,600	10,000	10,000	29,600
区分	負担金、補助金及び交付金	8,600	9,000	9,000	26,600
	需用費	500	500	500	1,500
	役務費	500	500	500	1,500

(7) 申請時点での寄附の見込み

(単位：千円)

	H29	H30	H31	計
株式会社島津興業	100	-	-	100
株式会社プレミアム	100	-	-	100
計	200	-	-	200

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

事業の K P I である日帰り観光客入込数について、実績値を公表する。

また、上富良野町まち・ひと・しごと創生会議において事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

毎年度8月に外部有識者(上富良野町まち・ひと・しごと創生会議)による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

(公表の方法)

目標の達成状況について、検証後速やかに上富良野町公式WEBサイト上で公表する。

(9) 事業期間

平成29年11月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 十勝岳ジオパーク推進事業

事業概要：現在認定審査中である十勝岳ジオパーク構想について、住民の意識高揚を図ると共に、ジオパークガイドの養成、講演会・各種講座の開催、環境整備を進め、交流人口の拡大、地域の活性化を図る。

実施主体：上富良野町

事業期間：平成29年度～平成31年度

(2) 十勝岳ネイチャーイベント推進事業

事業概要：十勝岳を舞台としたスポーツイベント(最大標高差1千メートル超の山岳自転車レース「かみふらの十勝岳ヒルクライム」、上富良野市街から十勝岳温泉郷を経由して美瑛町まで、雄大な自然の中を走り抜ける「十勝岳トレイル」)を成熟させ、北海道を代表するネイチャーイベントに育てること等を目標とする。

実施主体：上富良野町

事業期間：平成29年度～平成31年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

事業のKPIである日帰り観光客入込数について、実績値を公表する。また、上富良野町まち・ひと・しごと創生会議において事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年度8月に外部有識者（上富良野町まち・ひと・しごと創生会議）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況について、検証後速やかに上富良野町公式WEBサイト上で公表する。